

インドネシア水道に係る情報収集 No. 211001-2J

検索サイト	Google	実施日	2021/10/01	実施者	TADOKORO
検索方法： インドネシア、水質汚染で検索					
URL： https://www.hro.or.jp/list/building/result_pdf/H28h/383.pdf					
<p> 標題： インドネシア都市スラムにおける生活環境の総合的解決方策の検討 ー都市物質代謝システムの総合的把握と生活者の価値判断のマッチング 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所 調査研究報告 No. 383 </p>					
<p> 〈要旨〉 スラムの生活環境改善には、行政側と地域コミュニティ側の協働が必須であるが、多くの場合、行政の提示する制度・技術は、生活者の行動原理（価値判断基準と意思決定）とマッチしていない。スラムの問題解決のためには、生活者の価値判断が、システムやインフラの全体最適解に導かれるよう、制度設計と技術の選択が強く求められる。 </p> <p> 全体最適解を的確に求めるため、スラムの都市代謝システムの理解（物質・価値・エネルギーのフロー図作成による）、生活者の価値判断基準、行動原理を理解するための生活者の価値判断モデルの提案（価値判断モデルの作成による）、それらの結果をもとにした、全体最適解と生活者の価値判断基準の摺合せ、調和を実現するための制度設計を行った。 </p> <p> 物質・価値・エネルギーのフロー図作成 ①大半の物質はキアラチンドン市場を通じて地区内に入り、直接もしくは地区内の小さな商店、カートによる移動販売を通じて各家庭に持ち込まれる、②固形の廃棄物は、収集から域外搬出、リサイクルまでのしくみができている、③地域内に多様な移動屋台が存在し、物質循環への寄与も大きい、④排水がほぼ未処理で河川に流入し、周辺の水質汚濁を引き起こしている。 </p> <p> 価値判断モデルの作成 ・生活排水処理装置を設置していない家庭は約 4 割存在した。生活排水処理装置を設置する判断に影響する要因を調べると、「親族の影響力」、「収入レベル」、「信仰の強さの自己評価」が候補にあがった。 ・浄化施設設置には「収入レベル」と「規範意識」が比較的強く影響し、また「規範意識」には「宗教指導者の影響力」が影響していることが示された。 </p> <p> 3) 制度設計の提案 ・負荷の大きい人の糞尿について、コンポストトイレ等を用いた処理と、既存の固形廃棄物収集輸送システムを組み合わせる。 ・排水処理施設設置の意思決定に対して、家計の状況の影響は見られなかった一方、健康食品に対しては関心のある領域には投資できることがわかる。このことから、地域で発生するし尿を、たとえば有機野菜の栽培につなげて価値を創出するとともに、そのしくみを宗教指導者にオーソライズしてもらいつつ導入を進めることが一つの解決方策として考えられた。その効果としては、環境改善、収集輸送に係る雇用創出、宗教的価値観に基づく善行の実施により生活の質向上などが期待できる。 </p>					
備考 やや古い情報ではあるが、水だけではなく生活システム全体を見ての解決策を提案していることから、紹介した。					